

## 企画建設常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和2年12月25日(金) 第3委員会室
2. 出席委員 林高正委員長 桂藤和夫副委員長 門脇俊照 横路政之 政野太 岩山泰憲
3. 欠席委員 堀井秀昭
4. 事務局職員 俵啓介議会事務局議事調査係長
5. 説明員 花田譲二企画振興部長 東健治企画課長 田部伸宏企画課企画調整係長
6. 委員外議員 なし
7. 傍 聴 者 2名(うち議員 徳永泰臣)
8. 会議に付した事件
  - 1 市内の大型宿泊施設の運営について [企画課]  
(かんぼの郷庄原の経営状況等分析調査の報告について)
  - 2 閉会中の継続調査について
    - (1) 林業施策(森林環境譲与税関連施策)について
    - (2) 市街地活性化(公共性のある商業拠点施設とまちづくり)について
    - (3) 農業振興(有害鳥獣対策)について
    - (4) 市内の大型宿泊施設の運営について
    - (5) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済対策について
    - (6) 東城町福代地域の国道182号について

-----  
午後1時30分 開 会

○林高正委員長 ただいまから企画建設常任委員会を開会いたします。堀井委員から欠席届が提出されております。傍聴を許可しております。協議事項に入る前に本日の委員会は、一企業の公開されるべきでない内部情報も取り扱いますので、インターネットでの録画配信をしないこととしますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林高正委員長 ではそのようにさせていただきます。  
-----

### 1 市内の大型宿泊施設の運営について [企画課]

○林高正委員長 では、かんぼの郷庄原の経営状況等分析調査の報告についてということで企画振興部企画課から説明をいただきたいと思います。部長。

○花田譲二企画振興部長 御存じのとおり、かんぼの郷庄原の取得という部分につきましては、コロナウイルス感染症の影響によりまして、本年4月に取得の可否についての延期を決めまして、それから後、やはりこの可否について専門的な立場を持って、経営分析であったり市場分析であったりというものをすべきだという御意見もこの委員会からいただいたところでございます。この後、詳しく説明させますが、その内容について外部委託により調査を行っていただき、その報告をいただいていると

ころでございます。できれば早くに報告すべきところでありましたが、本日に至ったことをまずおわびさせていただきたいと思っております。それでは、早速、かんぼの郷庄原の経営状況の分析等の調査の報告について、担当課から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○東健治企画課長 本日、かんぼの郷庄原経営状況等分析調査の報告についてというA4の縦の資料と分析調査ということでのカラーのA4横の資料を御用意させていただいております。まず、かんぼの郷庄原経営状況等分析調査の報告についての資料をごらんいただければと思います。このたびの調査目的でございますけれども、かんぼの郷庄原を運営いたします、株式会社サンヒルズ庄原の経営状況分析、また、現状における課題やマーケティング、観光産業における市場調査等を専門的な知見によりまして分析を行っていただいております。委託先といたしましては、(2)へ記しておりますとおり、瀬戸内ブランドコーポレーションさんへお願いしたところでございます。2の報告の概要でございます。まず、経営分析による課題と改善の方向性といたしまして、財務分析でございます。カラー資料の5ページからになります。まず、かんぼの郷庄原における売上高ですが、年々減少する一方で、販売費、一般管理費、いわゆる販管費に占めます光熱水費、あるいは人件費の割合が増加している状況がございます。このことが経営にも影響を及ぼしているという状況があります。日本郵政との契約の中で、受託業務手数料を支払っておられますけれども、やはりこれに係る部分の影響というものも非常に大きな状況がございます。ことし2月までは8.5%でしたが、その後、交渉等によりまして2.55%ということになりましたが、10月以降は4.25%に上がっている状況もございます。また、施設の管理、あるいは販売促進、これは主に営業活動・PRといったようなところにもつながってまいりますけれども、それに対して、日本郵政株式会社からの制約、あるいは届出によって実施をしないといけないといったことから、サンヒルズ庄原主導の営業活動、施設改修が困難な状況ということがございます。今後に向けましては、やはりこのコストがかかっている光熱水費の抑制、あるいはコストカットにつながる設備改修、また、人材派遣費等の人件費の削減など、積極的な取り組みとあわせて、誘客施策が求められているという報告を受けております。続いて、②の部門別収支でございます。概要版で言いますと12ページからになってまいります。現在、サンヒルズ庄原による運営ですけれども、資料の13ページにもありますとおり、部門が宿泊、飲料、売店、温泉等の部門を設けておられます。それぞれにおいて、収支ではプラス収支となっている状況はございますけれども、やはり宿泊事業、温泉事業での収益率が高いという報告を受けております。ただし光熱水費、あるいは総務費的な共通経費がふえることによって、それぞれの部門で上がっている収益を打ち消している状況もございます。また、改善策として、それぞれの部門で対応しておられる職員がおられますけれども、複数部門を担う職員の育成、あるいは、施設内にある施設を有効活用し、遊休資産をもっとうまく活用するという必要ではないかという報告を受けております。そのほか商品開発、あるいは生産性、収益性の向上が掲げられる取り組みも必要だという報告を受けております。次に③外部評価分析でございます。資料の18ページからになります。かんぼの郷庄原を運営いたしますサンヒルズ庄原ですけれども、御利用されたお客様には、総じて高い評価をいただいているようです。大手旅行サイトにおいても高い評価を得ていると。これはグーグルとかじゃらんとか、そういったところからの評価ということで、グーグルレビューで見ますと、全国にありますかんぼの宿等の中でも、非常に高い評価を得ているといった結果もございます。その一方で、設備のリニューアル等については、十分に行われてない点。具体的な例で言いますと、今の時代ですので、スマートフォン、タブレット等の御利用になられるお客様の

ためのWi-Fi環境の設備が未整備であることなどが挙げられております。そうしたことからハードに対する評価が一部低い部分がございます。これに対しましては、第三者機関によります覆面調査も実施されております。これは、事前にそういった調査をするという予告なしに、第三者の方が普通に予約をされ、普通に施設を利用され、普通に食事等もされ、といった中で、専門家が評価をするといったものですが、その中でも類似した分析結果が出ているということが報告されております。この外部評価については、20ページに覆面調査ということで、資料にもつけさせていただいております。今後に関しましては、既存の利用されているお客様の満足度を維持するだけではなく、やはりしっかりとした広告宣伝、また、利用していただく前からあそこへ行ってみたいという事前期待値を高めることが必要だという報告となっております。また、評価が下がっている部分のハード整備も必要であるという内容となっております。外部分析で言いますと、総じて、来る前は余り期待していなかったけれども、来てみて利用してみると、なかなかかんぼというイメージとは違うといった評価をされているような状況でございます。それでは、A4縦の資料の2ページをごらんいただければと思います。将来的な展望といたしまして、①市場分析でございます。資料では、28ページからとなっております。現在、コロナ禍の影響によりまして、観光産業、非常に大変大きな打撃を受けている状況でございます。このコロナパンデミックによりまして、いわゆる外国からのお客様は壊滅的な状況、またこの回復は、相当時間がかかるだろうということを言われております。庄原の観光客を見ますと、外国の方はゼロではございませんけれども、以前から外国人の方に依存しているような来客状況ということではございませんので、ただし、国内全般で見ますと、やはりコロナの影響により、外国人のお客様はほぼゼロに等しい状況となっております。そういった中ではありますけれども、この観光ビジネス部門は回復力が高いということで、過去に9.11、あるいはリーマンショックによる落ち込みに対して、再活性化を果たしてきているということも報告を受けております。今後、コロナ禍の影響ですけれども、GoToキャンペーン等によりまして、全国的に観光客ふえつつありましたけれども、再度の第3波ということで、また状況が変わっているところもございます。ただし、このコロナ禍による3密回避、あるいは近距離での観光というスタイルが、現在、ニーズが高まっているという状況があります。こういったことを見ますと、今後、中山間地域である庄原市にとっては、ある意味、追い風になってくる可能性も秘めているという報告も聞いております。次に顧客設定でございます。資料としては、34ページからになります。現在、かんぼの郷庄原を御利用のお客様、主要な客層でありますシニア層ですが、かんぼの宿会員の方が大半を占めておられます。庄原市が取得した場合、かんぼという看板が外れるわけですが、大半のお客様は施設を気に入っておられる状況があることから、大多数の方は、引き続き御利用いただけるのではないかと報告も受けております。また、それだけではなく、新たな顧客層を開拓する必要がある。そのことによって収益構造を改善し、収益の増を目指すということが必要ということで、ターゲットの一つとしましては、やはり地域住民の方により多く御利用いただけるような施設を目指すことが必要ではないか、そういった機運を図るべきだという報告も受けております。資料には、34ページにシニア層からターゲットA、B、C、Dといった形で、ファミリー層であるとか、ビジネス利用層、あるいは、アクティブシニア層といたしまして、1度の旅行に経費を少し多めにかけられるシニア層、また、地域住民層といった、それぞれに対しての取り組みに関しても報告を受けております。資料③の収支シミュレーションですが、こちらにつきましては49ページになります。これまでお話をさせていただきました分析による課題等

に対して、あるいは改善策等を講じる中で、生産性の向上を図っていくことが必要ということでございますけれども、収支のシミュレーションを3パターン設定し、試算していただいております。3ページ上段に、売上高ということで、①②③と三つのモデルを想定されております。29年度を基準といたしまして、下ぶれとしましては、稼働率の10%減、標準としては、稼働率10%減ですが、宿泊単価を20%増。また、上振れとしては、客室稼働率が同水準プラス宿泊単価20%の増という中で、販売費及び一般管理費、販管費についてはまた、1から3まで、それぞれの取り組みを行っていくという中でシミュレーションとなっております。2ページ下段にシミュレーションの一覧表としておりますけれども、下振れ、標準、上振れ、いずれも最下段の営業利益としては、プラス収支という結果になっております。もちろん販管費等での取り組みが十分になされた上でということにはなってまいりませんが、シミュレーションにおいては、プラス収支での運営が可能ではないかという報告を受けたところです。カラーの資料に戻っていただければと思いますが、41ページから、庄原新ホテルといたしまして、かんぼの郷庄原の方向性について、これは受託業務事業者が想定をされた方向性ということになってまいりますが、ブランディングによりますチャンス領域ということで、近隣エリアでの国内旅行活性化、あるいは、団体旅行から少人数での旅行への多様化。あるいは、全国的に言われておりますキャンプブーム等によります、いわゆる自然回帰志向。また、かんぼという枠が外れますので、そのイメージからの脱却等を方向性として、これは提案といたしますか。受託者が想定をされたものとして報告を受けております。42ページ、43ページには、いわゆるかんぼの宿のイメージ、また、新しいホテルとしてのチャンス領域として、他の施設の例も示しながら報告を受けております。44ページには、宿泊施設のいわゆる位置づけといたしますか。どういったポジショニングをとっていくことが望ましいかといったもの内容となっております。45ページの内容につきましては、施設内、あるいは施設周辺等の積極的な活用によって、こういった運営、こういった取り組みもできるのではないかと提案の内容となっております。46ページには、それらを踏まえたそれぞれ客層、価格帯、ハード整備、また、サービス等の概要を取りまとめておられます。最後にカラーの資料の表紙をめくっていただいた2ページ冒頭、はじめにということで、まとめておられますけれども、かんぼの郷庄原の必要性ということで、やはり観光資源としての中心拠点として地域の活性化、あるいは、施設の活用状況においては、温浴施設、コンベンション機能、また、帰省客等の宿泊受け入れ、雇用の点では、市内雇用の確保、また、経済効果としては、やはり、市内事業者との契約、また災害に関しましては、庄原市も日本郵政と現在、かんぼの郷庄原を利用した災害協定も締結しております。そういった内容が、かんぼの郷庄原の機能と効果ということで、取りまとめをされている状況もでございます。今回、かんぼの郷庄原を運営いたします株式会社サンヒルズ庄原の経営状況分析ということで、専門的な知見によりまして調査を実施してまいりました。今回、こういった内容で報告を受けましたので、この内容につきましては、今後、取得の可否について庄原市として判断していく上において、参考にする中で、今後、また、市民の方々、あるいは各種団体の方々にも、この内容を参考にした市としての考え方というものを説明させていただきながら、最終的な判断を行っていきたく考えております。説明は以上でございます。

○林高正委員長 説明を受けました。すぐには理解がなかなかできにくいと思いますが、聞いてみたいこと等があったら、挙手の上、質問してください。横路委員。

○横路政之委員 今回、300万円お金を出して、分析してもらいました。可決するとき、一般市民の

方にもこういった分析結果を公表すると言われましたよね。きょうの話はこれは秘密の部分もあると言われた。どこまで出すのですか。

○東健治企画課長 市民の方々、あるいは、市内公共的団体等への説明ということは必要と思っておりますし、以前、予算をお願いさせていただく中でも説明をさせていただいたところですので、手法としては、直接お集まりいただくという方法もあろうかと思うのですが、今、コロナ禍の状況でお集まりいただくということに関しては、少し課題がありますので、こういった形でという部分については、今後少し検討してまいりますけれども、内容的には、今、お配りさせていただいておりますA4縦の資料、こういった形のあまりズラズラと文書を書いた資料ではわかりにくい点もあろうかと思っておりますので、簡略にした形で、広く市民の方々にもこういった状況だということは報告していきたいと思っております。きょうお配りしたカラーの資料に関しましては、やはり売上等に関する内容がございますので、ここまでの資料は市民の方々へお示しするという事は考えておりません。

○政野太委員 いろいろこう分析された結果、最初にあった報告の改善の方向性ということで、ハード関連の整備によりというようなことも書いている中で、将来的な展望のところにもそれが入っているのか。簡単に言うと収支シミュレーションモデルに、その経費は、ここには見えないのですけれども、この収支モデルはあくまで現状の施設で出されているのか、もしくは必要な改修をした後のシミュレーションになっているのか。

○東健治企画課長 2ページ下段にシミュレーションモデルということで、お示しさせていただいておりますけれども、この中には、施設の改修、あるいは修繕に係る経費に関しては、含まれておりません。ただし、2019年度の売上高をベースにしておりますので、この中には、いわゆるサンヒルズ庄原がみずからの修繕等を行っているものに関しては、含まれた中での売上高ということになっておりますので、日本郵政が負担している改修経費等というものは、この中には、含まれていないということになりますので、この収支シミュレーションモデルで言いますと、やはり、施設の改修であるとか修繕に係る経費というものは、これ以外に発生するという事になってまいります。

○政野太委員 1番最後のページに収支モデルの施策のまとめというところで、宿泊に関しては例えば洋室の割合の増にするとか、いわゆるハードに関するものが多くここに入っているのですけれども、そこらの試算というのはDMOさんではされていないということよろしいですか。これは誰がするのですか。

○東健治企画課長 今回の業務委託の中では、改修に係る経費の試算は行っておりません。これは次のステップになってこようかと思っておりますけれども、先ほど言われました洋室化への改修等に関しても、やはりお客様の利用状況についても報告をいただいておりますけれども、やはり洋室のほう稼働率が高いという状況から、そういった改修も必要であるということは報告がありましたので、今後、そういった改修ということになりますと試算等も必要になってまいります。今回の経営状況分析調査の中には、改修経費の試算は含まれていないということで御理解いただければと思います。

○門脇俊照委員 それはあえて出されなかったのですか。1番の問題。

○東健治企画課長 改修経費で言いますと、今言いました利用者ニーズに合った改修、あるいは設備関係の改修ということもあろうかと思っておりますけれども、これに関しては、現在、瀬戸内ブランドコーポレーションさんに、別途、試算等もしていただいている状況がございます。ただし、業務委託の仕様の中に明確に試算する業務は含まれておりませんので、ここは瀬戸内ブランドコーポレーションが少

し取り組みもしていただいていると伺っておりますし、市として取得ということになりますと、どこまでするのかということも含めて試算はしていかないとはいえないと考えております。

○門脇俊照委員 以前にも伺ったときに、かんぽの利用客で会員さんによるものはどのぐらいですかと尋ねたときに、ほとんど会員の分は影響ありませんとどなたかが言われたと思うのですが、ここを読むと大半が会員、いわゆる親方日の丸の中での顧客ですよね。そうなったときにこの600万円、700万円ぐらいのPR、宣伝費用で顧客が来てくれますか。今から全部、今度は単体でやらないといけないということになると、僕も会員になっていたときがあったのですが、15%とか、多いときは20%ぐらい安くなったりとか、4回か5回いろんなところに泊まると1泊無料になるとか。だから会員の人は離れない。お年寄りの方の場合。そういうところも全然、ここには一切触れていない。

○東健治企画課長 報告の中では、利用者のうち、かんぽの宿会員が60%程度ということでありまして、そのうち、かんぽブランドがなくなることによって約10%程度がお客様としては利用しなくなるのではないかと推測はされております。ただし、これまでPR戦略といいますか、宣伝の取り組みが本当に他の宿泊施設等と比較すると経費的にもそうですし、取り組み的にも非常になされていないという報告も聞いております。そういったところへしっかりと取り組みをする。また、予約システム等インターネット等を利用して予約できるような形の取り組みをしっかりとすることによって、新たなお客様は獲得していきける可能性は十分にあるということは伺っております。

○門脇俊照委員 6億円から7億円を売り上げるのに、PR費用がそれぐらいというのは、かけてないということ。

○東健治企画課長 もともと、このかんぽの宿ですけれども、かんぽ会員のいわゆる福利厚生のために建設をされたということで、周辺の民業圧迫もしてはいけないというようなことから建設、あるいは営業活動をされていたということも伺っております。そういった流れが今日まである意味、続いてきている部分もある程度ないかということも伺っております。

○政野太委員 9月30日にこれが提出されていると。既に3カ月が経過しようとする中で、しかも来年度予算をこれから決めていかなければいけないという時期になって、この報告書を受けて選択肢だと思うのですが、どの方向に進められるかというようなところまでは多分出ないと思うのですが、例えば、廃止をするというところから始まって、今ここにあるようなモデルを遂行するという選択肢。または、この投資については民間企業を募るとか、いろんな方法があると思うのですが、どの程度、今思ってるしゃるところなのか、現状では。

○東健治企画課長 このかんぽの郷ですけれども、日本郵政は、いわゆる庄原市が取得しない場合には広く公募をするということをおられます。広く公募ということになりますと、日本国内だけではなく海外企業等も参加できるという状況になりますので、どこのどなたが取得をされて、また、宿泊機能として継続をされるかどうかということもわからない状況もあります。また、手が上がらない場合には、いわゆる閉館という可能性もあります。そういった状況も踏まえながら、今後の庄原市としての方針を決めていかないとはいえないという考えでおります。

○政野太委員 選択肢というのはそのほかに何個かあると思うのですよ。そこらはまだ全然具体的に煮詰めてないということでもよろしいですか。あともう一つは、そうは言ってもこの問題が出てきてもう1年が経過するわけなので、その間には民間企業であるとか、いろんなところがアクションを起こしてきていると思われま。そういった動きはないのですか。

○東健治企画課長 現在、結論を出すためにどういった状況にあるのか、あるいは民間等からの庄原市へ対しての話という部分につきましては、程度にはよりますけれども、問い合わせ程度、庄原市は取得されるのですかというような話であるとか、日本郵政は、庄原市が買わなかったらどうされるのですかというような問い合わせというものは数件ございます。より具体的な話は企画課では承知しない部分ありますけれども、民間等が取得された場合には、この機能がいつまで継続されるかわからないという課題はどうしてもありますので、そういった状況を踏まえることと、結論として長引いている状況の理由の一つとして、やはりコロナ感染症の影響は非常に大きく判断を鈍らせている部分はあると思っております。

○門脇俊照委員 これ我々、いずれ結論を出さないといけないと思うのですが、市長は買いたい。我々もかんぼの宿は庄原市に必要だと全員を思っています。だけど、判断のしようが、提案というか、これが出てきたので初めて少しは前向きになったのですが、本当は、大体2億5,000万円と言われたのですが、買うのなら別に皆いいと思う。だけど、示されていないのは、買った後の運営プランが全く出てきていない。例えば、老朽化したものを買ってから、庄原市が直すのか。家賃は、これまで通りもらうのか。反対に委託して委託料を払うのか。もう一つは、固定資産税が入るのか入らないのか。入湯税はどうなのか。まかり間違っても赤字が出た場合は、市はそれを丸々補てんするのか。全く示されていない。判断のしようがないのです。だから、せめて、プレゼンするのなら、それによって判断ができるような、気持ちよく手が挙げられるような提案をしてもらわないと、いつまでたっても同じようなことを質問させていただくようになるので、そろそろ庄原市が取得した場合はこうしますよということがないと。やはりそこは腹をくくってもらわないと。民間企業でもそうでしょう。新しい会社の支店を出す。土地を買収する。合併するというときには、かなりの提案書は積み上がるわけなのですが、こんな今までのことならテーブルにも乗らないですよ。ですから、もし、今度こういうことをしていただくのなら、ぜひ、庄原市としての買ったときの運営プランというのをしっかり、これは市民にも示さないといけないと思うのですよね。これが全く今までなかった。

○花田譲二企画振興部長 議員おっしゃるとおりだと思っております。今の段階ではそういった分析をした上での話。判断の材料とするための分析ですから、今の経営状況であったり市場分析。どうしても先ほど課長が申し上げましたとおり、どうしてもコロナの状況がまだわからない。本当に来年で取得するのであれば、コロナの終息後のことを考えればいいわけですけど、そういうわけにいかないということもありまして、そういったものを含めますが、今後、やはりそういう形で提案をしていく場合には、当然、市の方向性を出した上での提案になりますので、その場合には先ほどありました、では改修費をどうしていくのか、今の段階で、経営をしていった場合でも、いろいろな部分のところを少し改善すると、この状態になりますよという可能性がありますよと報告いただいている。ただし、部屋を改修した場合には、これだけかかります、これだけはふえていきますと、そういった形のシミュレーションはしていく必要があると思いますので、当然、そういった形のものの方向性、ですから市が取得して運営をしていきますという方向性を出す場合には、当然そこまでをプレゼンテーションというか、見ていただいて、それで可否という部分のところの判断を皆さんの御意見を聞きたいと思っておりますので、現段階で申しわけございません。そこまでは出せない大変申しわけないのですが、そういった場面は、今後、詰めていきたいと考えております。

○横路政之委員 今後の予定ですが、きょう説明を受けて、あとは今年度中にはもう結論を出すような

気持ちでおられるのですか。コロナがどうなるかわからない中で、どう思っておられるのか。選挙もあるので、新執行部へ申し送りするのか。

○東健治企画課長　　本日は、こういう形で企画建設常任委員会で報告、説明をさせていただきましたけれども、先ほども述べましたとおり、市民の方々あるいは各種団体等への説明ということも必要になってきよいかと思っております。また、先ほど門脇委員からも言われました、運営のシミュレーションであるとか、改修の経費的などの説明ということも必要になってまいりますので、そういったところを丁寧に説明させていただいた後に、市としての方向を決定させていただいて、進めさせていただきたいと思っております。現在のところで、明確にいつということは申し上げられませんが、そういったことの説明等を十分させていただきながら、また、コロナの状況も踏まえながら結論は出していきたいと考えております。

○横路政之委員　　未定ということですか。

○東健治企画課長　　時期的に申しますと、最終的な方向を市としての方向をお示しするのは、今年度中には難しいという認識でおります。

○政野太委員　　僕も最初から言っているとおり、例えば、取得して指定管理にして業務委託にするのかとか、いろんな方法があると思うのですが、これまでの庄原市のいろんな施設の管理を見ると、庄原市が取得して、整備までして、業務委託もしくは指定管理というような手法が非常に多いのではないかと思います。ただそれが多分1番早いし、結果も出やすいのかもしれませんが、あえてここは難しい道も模索していただいて、ここまでの数字が出ているわけですから、これを魅力的に感じる民間企業たくさんあると思うのですよ。だから、やはりそういうところで募集をかけられるような、いわゆるPPPであるとかPFIであるとかというような手法を本当に研究して、それも選択肢の一つに加えて検討していただきたいということを強く伝えたい。

○林高正委員長　　その他ございますか。運営会社のサンヒルズの方が私たちはどうなるのだろうか、大変心配されているのですけれど、今、課長は、年度内には多分結論出せないでしょうとおっしゃいました。そうすると契約延長してあげないと休止になってしまいます。そのあたりの考えはどうなのですか。

○東健治企画課長　　4月に判断の延期をお示しさせていただきましたけれども、それ以降、日本郵政あるいはサンヒルズ庄原とも協議を重ねてまいりました。日本郵政側には、いわゆるコロナ禍において、庄原市としても判断を非常に苦慮しているということをお伝えし、これについては御理解もいただいております。サンヒルズ庄原の経営、日本郵政との契約が来年3月末までとなっていることも私どもも承知しておりますし、日本郵政側もそのことは十分承知しておられます。来年4月以降についても、今の状況が契約延長という形で何とかお願いできないかということも日本郵政側に庄原市からお話をさせていただいて、できるだけことは日本郵政としてもさせていただくということもお聞かせいただいているところですので、正式に4月以降も今の体制でいきますよという回答はいただいておりますけれども、引き続きの契約を庄原市としても日本郵政へ働きかけていきたいと考えております。

○林高正委員長　　よろしいですか。この程度でとどめたいと思います。今回、委員会閉会のあと委員の方と執行者と、傍聴の方は外れていただきますけれども、意見交換ということでもさせていただきたいというように思います。

## 2 閉会中の継続調査について

- (1) 林業施策（森林環境譲与税関連施策）について
- (2) 市街地活性化（公共性のある商業拠点施設とまちづくり）について
- (3) 農業振興（有害鳥獣対策）について
- (4) 市内の大型宿泊施設の運営について
- (5) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済対策について
- (6) 東城町福代地域の国道182号について

○林高正委員長        2点目の閉会中の継続審査についてでございます。1、2、3、4、5と林業施策、市街地活性化、農業振興、市内の大型宿泊施設の運営について、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済対策についてということで、これを来年の3月議会、最終の議会で報告させていただこうというように考えております。そして6点目の東城町福代地域の国道182号線についてですが、これはもう市議会だより11月号でも記事として掲載した関係もございますので、12月議会の最終日8日に発表させていただいて、報告して終了するというようにさせていただいてもよろしいですか。では、そのように1点目から5点目は最終の3月定例会で委員長報告をさせていただくと。6点目は、来年1月8日に報告するというようにさせていただきます。ではこれで企画建設常任委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後2時20分        閉    会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定によりここに署名する。

企画建設常任委員会

委員長